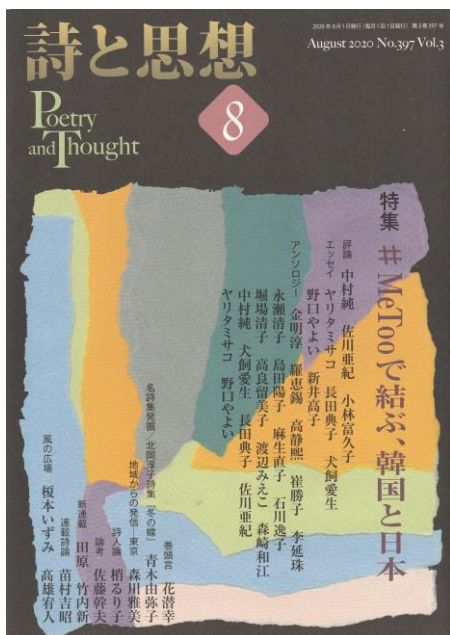


# はぎの会本棚 2020・秋号



詩と思想 2020/8月号  
土曜美術社出版販売

詩人 梢るり子さん（鈴木瑠璃子さん 英大10卒）のボブ・ディラン小論『Bob Dylanは「詩人」なのかー日本現代詩の閉塞感を打ち破るために』が掲載されています。2016年、ノーベル文学賞を受賞したアメリカのフォークソングシンガー、ボブ・ディラン氏の楽曲と詩が、詩人の感性によって縦横無尽に読み解かれ、論じられています。梢るり子さんより、紹介文をいただきました。

もはや半世紀以上も昔の、第一次安保闘争を体験した者にとって、ディランの唄は、同世代の情感を代弁するものだった。2016年にアメリカ文化の伝統を踏まえた功績に対して彼がノーベル文学賞受賞した折には、やや意外の感があったが、その事の意義を改めて考えてみる。ディラン自身は自らをギリシャ古典、特にホーマーの伝統を受け継ぐ詩人である、という。他方、現代日本を代表するミュージシャンの一人である井上陽水は、ディランからその作品作りの多くを学んだ、という。私も現代詩に携わる者にとって、二人を異質の世界の住人達と見なして良いのだろうか。私共が苦しんでいる閉塞感を抜け出すには、もう一度この二人が体現している通俗性（音による表現）の意義を見直す必要がないのだろうか。

梢るり子



BM 美術の杜  
43号  
BM 美術の杜  
47号  
美術の杜出版社

梢るり子さんの詩が掲載されています。  
43号 「ワニが来る」「白い猫たち」ほか4編  
47号 「旅立ちの詠」「白の季節」ほか2編